

制度改正に向けた 戦略発想の転換 2

まずは、9つの点をメモ用紙に書き写してみよう。

その上で、「3本の直線で結ぶ」ための答えのイメージを描いてみたい。

「三角」「N」「Z」「ジグザグ」など、思い浮かんだらしめたもの。

続いて、その紙を「対角線上を斜め」、「タテに向かって均等」、「ヨコに向かって均等」など3つのパターンで「二つ折り」に重ね合わせる。

重ねた紙の上から、「三角型(図1)」、「N型(図2)」、「Z型(図3)」と串刺しにすれば、簡単に一筆書きを記すことができる。

「ジグザグ」の場合は、最初の1本目を上段左の「●」の「上」の位置から真ん中の「●」の「中」を通して、右の「●」の「下」の位置に斜めに直線を引く。2本目は、中段の3つの「●」をその逆から。更に、3本目は下段を再度、逆に。それぞれ「ジグザグ型(図4)」状に直線を引けば一筆書きが完成する。

太い線と細かい線を使うというのもある。最初の1本目は、下段左と真ん中の「●」を跨ぐような太い線を下から上に伸ばして引く。すると、2本目と3本目の細線は楽に引けて、「太線+細線型(図5)」ができあがる。

介護保険改正の見直しは、制度の持続可能性を求める見地から、給付の効率化と重点化がポイントである。

「4本」を「3本」と「1本」減らしながら、「コンパスの卵」のように効率よく線を引く。引き方の視点が変われば、「三角」「N」「Z」と答えの出し方が異なる。医療法人、社会福祉法人、株式会社など、法人の背景によって制度改正の捉え方が一様ではなくなるとみている。

枠からはみ出る「ジグザグ」は、宅幼老所などにみる保育や障害など制度外事業との一体例。太線と細線は、介護給付と予防給付、介護保険と保険外という事業の組み合わせ方など、それぞれの法人にとって自らの強みを発揮した乗り切り方を画するという戦略発想の転換が不可避になる。

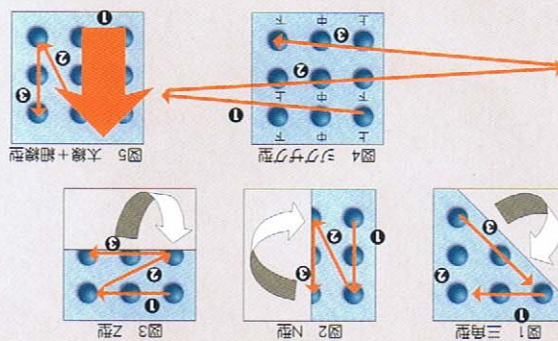
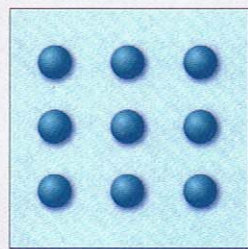
「利用者本位」に向き合った「問題解決=顧客ソリューション(Solution)」から目を逸らすことなく、これまで行われてきた介護モデルという既成概念を破る大胆な挑戦が始まっている。「逆デイ」「小規模多機能」「宅幼老所」など、その萌芽の一形態に過ぎない。

制度改正後、介護サービスのイメージを掴むには、相合傘しか描けなかった時代から一歩踏み込んだ戦略発想を経営幹部が豊かに持ち合わせることである。この課題は、発想の豊かな人財発掘を行う機会と捉えて、グループワークなどで取り組めるよう現場にも投げかけてみるとよい。

「9つの点を全て通って、3本の直線で一筆書きせよ」の答えは、まだまだある。

問題

「9つの点を全て通って、3本の直線で一筆書きせよ」



(有)ハヤカワプランニング 代表
早川 浩士 氏
1953年生まれ 52歳 中央大学
卒業 経営コンサルタント 中小企
業大学校講師
新著「介護保険改正に勝つ! 経営
(年友企画)」他 著書多数
「経営(継承)のツボ」「介護ビジネス
ス塾」「介護事業経営の虎の巻」を
連載執筆中
<http://www.hayakawa-planning.com>